

⑫ 公開特許公報(A) 平4-148786

⑤ Int. Cl.⁵B 66 B 11/02
5/00
11/02
13/30

識別記号

C
Z
P
Q

庁内整理番号

6573-3F
7814-3F
6573-3F
6573-3F

⑬ 公開 平成4年(1992)5月21日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 エレベータ

⑮ 特 願 平2-273773

⑯ 出 願 平2(1990)10月12日

⑰ 発 明 者 久 保 田 友 治 東京都府中市東芝町1 株式会社東芝府中工場内
⑱ 出 願 人 株 式 会 社 東 芝 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地
⑲ 代 理 人 弁 理 士 佐 藤 一 雄 外3名

明 細 書

(従来の技術)

1. 発明の名称

エレベータ

既に提案されているこの種のエレベータのにおける乗りかごの保安装置は、第4図に示されるように構成されている。

2. 特許請求の範囲

乗りかごの正面側壁の一部に設けられた防犯窓と、この防犯窓の背部の上記乗りかごの内側に添設された反射鏡と、上記防犯窓に向合った各階床の乗降側の正面側壁に設けられた覗き窓とを具備したことを特徴とするエレベータ。

即ち、第4図において、例えば、高層マンションのような高層建物における昇降路1内の各階床には、各乗場2が形成されており、この乗場2には、門型をなす入口枠3が設けられている。又、この入口枠3の内側に位置する上記乗場2には、戸袋4が立設されており、この戸袋4には、一対のホールドアパネル5が後述する乗りかご7の開閉扉9と同期して開閉するように開閉自在に設けられている。さらに、この各ホールドアパネル5の中程には、透明なガラス板による各覗き窓6a、6bが設けられており、この各覗き窓6a、6bは上記各階床ごとの各ホールドアパネル5に添設されている。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の目的〕

(産業上の利用分野)

本発明は、例えば、高層マンションのような建物における昇降路に沿って昇降するエレベータに係り、特に、このエレベータにおける乗りかごの保安装置に関する。

一方、上記昇降路1内には、図示されない巻上機の吊りロープで昇降する乗りかご7が上記各乗場2へ停止するようにして設けられており、この

乗りかご7の正面開口部7aには、各戸袋8が立設されている。又、この各戸袋8には、一對の開閉扉（カードパネル）9が上記乗場側のホールドパネル5と同期して開閉するように開閉自在に設けられている。さらに、この各開閉扉（カードパネル）9の中程には、透明なガラス板による各防犯窓10a、10bが設けられており、この各防犯窓10a、10bは上記各覗き窓6a、6bに向合って設けられている。

従って、上述したエレベータにおける乗りかごの保安装置は、例えば、高層マンションのような不特定多数の人達が乗降する乗りかご7内でも各階床の透明なガラス板による各覗き6a、6bから上記各開閉扉9の各防犯窓10a、10bを通して乗りかご7内を観察できる状態にして乗りかご7内の乗客の安全を図るようになっている。

（発明が解決しようとする課題）

しかしながら、上述したエレベータにおける乗りかごの保安装置は、乗場側の上記各覗き窓6a、6bを上記各階床の各ホールドパネル5

に添設している関係上、上記各覗き窓6a、6bを上記各階床の各ホールドパネル5ごとに取付けなければならない、しかも、2枚扉のホールドパネル5では各階床の2倍になり、この各ホールドパネル5の製造に多くの時間と労力を費すばかりでなく、安価に提供することが困難である。

本発明は、上述した事情に鑑みてなされたものであって、各覗き窓を上記各階床の各ホールドパネルごとに添設することなく、各ホールドパネルや乗りかごの開閉扉の製造を簡素化すると共に、乗りかごの乗客に対して安全性の向上を図るようにしたエレベータにおける乗りかごの保安装置を提供することを目的とする。

（発明の構成）

（課題を解決するための手段）

本発明は、乗りかごの正面側壁の一部に防犯窓を設け、この防犯窓の背部の上記乗りかごの内側に反射鏡を添設し、上記防犯窓に向合った各階床の乗降側の正面側壁に覗き窓を設けたものである。

（作 用）

本発明は、高層マンションのような不特定多数の人達が乗降する乗りかご内でも各階床の透明なガラス板による各覗き窓から上記各開閉扉の各防犯窓を通して乗りかご内を観察できる状態にして、乗りかご内の乗客の安全を図るようにしたものである。

（実施例）

以下、本発明を図示の一実施例について説明する。

なお、本発明は、上述した具体例と同一構成部材には、同じ符号を付して説明する。

第1図乃至第3図において、符号1は、高層マンションのような高層建物における昇降路であって、この昇降路1内の各階床の乗降側には、各乗場2が形成されており、この乗場2には、門型をなす入口枠3が設けられている。又、この入口枠3の内側に位置する上記乗場2には、各戸袋4が立設されており、この各戸袋4には、一對のホールドパネル11が後述する乗りかご7の開閉扉

13と同期して開閉するように開閉自在に設けられている。さらに、この各ホールドパネル11の近傍の乗降側の正面側壁1aの中程には、透明なガラス板による覗き窓12が設けられており、この覗き窓12は後述する乗りかご7内を観察できるようにになっている。

一方、上記昇降路1内には、図示されない巻上機の吊りロープで昇降する乗りかご7が上記各乗場2へ停止するようにして設けられており、この乗りかご7の正面開口部7aには、各戸袋8が立設されている。又、この各戸袋8には、一對の開閉扉（カードパネル）13が上記乗場側のホールドパネル11と同期して開閉するように開閉自在に設けられている。さらに、この各開閉扉（カードパネル）13の近傍の上記乗りかご7の正面側壁7bの一部には、透明なガラス板による防犯窓14が設けられている。

即ち、第2図及び第3図に示されるように、この防犯窓14は、上記乗りかご7の正面側壁7bに防振ゴム15を介装して固定部材16で取付け

られている。さらに又、上記防犯窓14の背部の上記乗りかご7の内側には、反射鏡17が添設されており、この反射鏡17は上記乗りかご7内の死角部分を上記覗き窓12及び防犯窓14を通して観察できるように構成されている。

従って、高層マンションのような不特定多数の人達が乗降する乗りかご7内でも各階床の透明なガラスによる各覗き窓12から上記防犯窓14を通して、乗りかご7内を観察できる状態にしているから、この乗りかご7内の乗客の安全を図ることができる。

〔発明の効果〕

以上述べたように本発明によれば、乗りかごの正面側壁の一部に防犯窓を設け、この防犯窓の背部の上記乗りかご7の内側に反射鏡を添設し、上記防犯窓に向かった各階床の乗降側の正面側壁に覗き窓を設けてあるので、不特定多数の人達が乗降する乗りかご内でも、各階床の透明な各覗き窓から上記各開閉扉の各防犯窓を通して、乗りかご内の死角部分をも観察できる状態にして、乗りかご

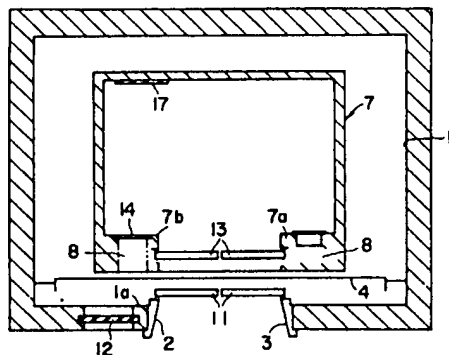
内の乗客の安全を図ることができるばかりでなく、一対の開閉扉やホールパネルを標準品によるものを使用できるから、ドアリンク機構等の付属装置も全て標準規格に基づいて使用できるようになり、構成も簡素であるため、組立て調整や保守点検も容易である等の優れた効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

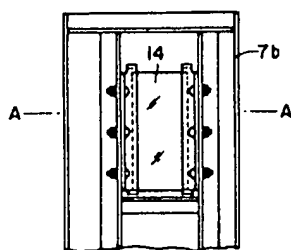
第1図は、本発明のエレベータにおける乗りかごの横断面図、第2図は、本発明のエレベータにおける乗りかごの要部を示す正面図、第3図は、第2図中の鎖線A-Aに沿う横断面図、第4図は、既に提案されているエレベータにおける乗りかごの横断面図である。

1…昇降路、2…乗場、7…乗りかご、11…ホールドアパネル、12…覗き窓、13…開閉扉、14…防犯窓、17…反射鏡。

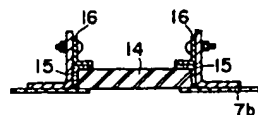
出願人代理人 佐 藤 一 雄



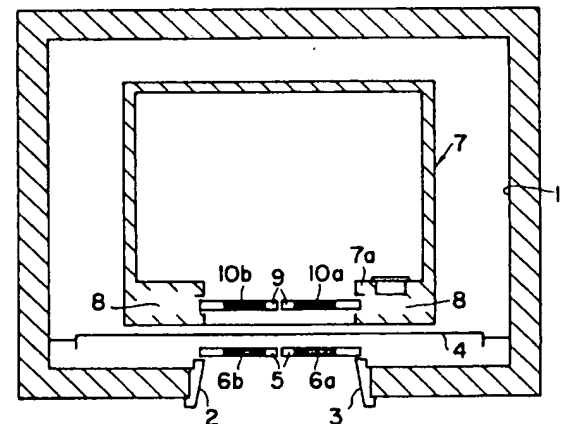
第1図



第2図



第3図



第4図